

結婚・出産・子育て、仕事に関するアンケート

～県内の高等教育機関で学ぶすべての学生約1万6千人にお聞きしました～

本調査は、三重県の少子化対策の計画である「希望がかなうみえ 子どもスマイルプラン」にもとづいて、結婚・妊娠・子育てなどの希望がかない、すべての子どもが豊かに育つことのできる三重をめざして取組を推進する上での参考とするため、内閣府の地域少子化対策重点推進交付金を活用して、三重県内の高等教育機関で学ぶすべての学生の皆さん（約1万6千人）を対象に、結婚や妊娠、子育て、仕事についての意識を調査したものです。

（調査概要）

調査名：結婚・出産・子育て、仕事に関するアンケート

調査対象：県内14の高等教育機関で学ぶすべての学部及び学部相当学生16,156人

調査方法：学内・校内での配布・回収

調査期間：（当初調査）平成29年6月21日～平成29年7月21日

（追加調査）平成29年9月22日～平成29年10月16日

※当初調査の期間中において一部の学生に調査票を配布できなかったことなどから、回収率の低かった大学で追加調査を実施（回答者に重複はありません）

有効回答数：10,723通（有効回答率：66.4%）

調査委託機関：高等教育コンソーシアムみえ

（目次）

1. 交際や結婚について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2
2. 子どもを持つことについて・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5
3. 家庭と仕事について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6
4. 就職について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 8
5. 妊娠・出産に関する医学的情報の認知度・・・・・・・・・・・・ 10

三重県 健康福祉部 子ども・家庭局 少子化対策課

〒514-8570 三重県津市広明町13番地

電話：059-224-2404

FAX：059-224-2270

E-mail：shoshika@pref.mie.jp

みえ子どもスマイルネット

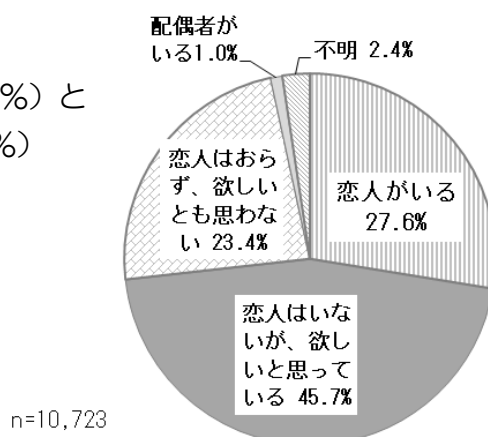
[http:// www.shoshika.pref.mie.lg.jp/](http://www.shoshika.pref.mie.lg.jp/)

1. 交際や結婚について

- 4人に3人は「恋人がいる」または「恋人はいないが、欲しいと思っている」と回答している。**図表 1**
- 恋人が欲しいと思わない理由は、「自分の趣味に力を入れたい」、「恋愛が面倒」、「勉強や就職活動に力を入れたい」の順に多い。**図表 2**
- 結婚について肯定的な考え方（「結婚はするべきだ」「結婚はしたほうがよい」）の割合が高いものの、4人に1人は結婚はしなくてもよいと考えている。**図表 3**
- 自身の結婚に対する考えについて、約7割の人が「いずれ結婚するつもり」と回答し、この傾向は小さい子どもと遊んだ経験が多い人ほど高くなっている。**図表 4**
- 理想の結婚年齢の平均は 26.6 歳（男子学生 27.0 歳、女子学生 26.1 歳）で、結婚年齢を考える際に重視した事項は、男子学生は「経済的理由」、「仕事（キャリア）」、「自由な時間」、女子学生は「出産・育児」、「仕事（キャリア）」、「経済的理由」の順に多い。**図表 5** **図表 6**

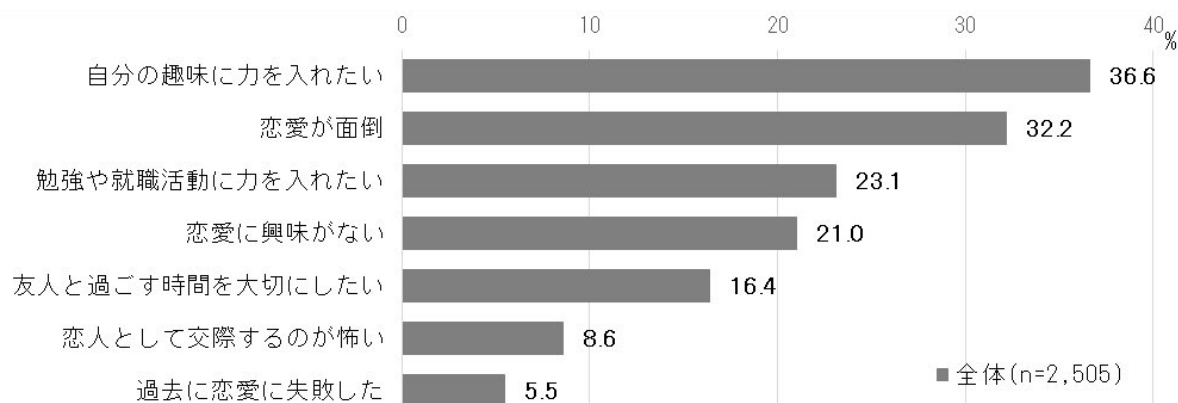
図表 1 現在の交際状況（問 6）

- 現在の交際状況について、「恋人がいる」（27.6%）と「恋人はいないが、欲しいと思っている」（45.7%）を合わせると 73.3%となっている。



図表 2 恋人が欲しいと思わない理由（問 7_複数回答）

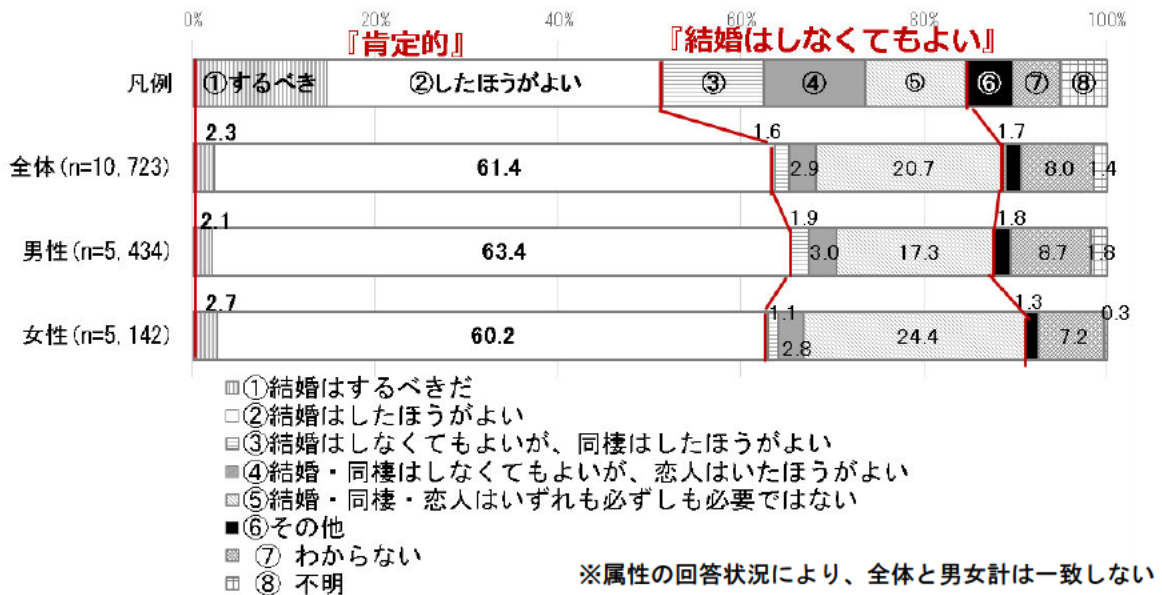
- 恋人が欲しいと思わない理由は、「自分の趣味に力を入れたい」（36.6%）、「恋愛が面倒」（32.2%）、「勉強や就職活動に力を入れたい」（23.1%）の順に多い。



※「その他」の選択肢及び不明を除いて記載

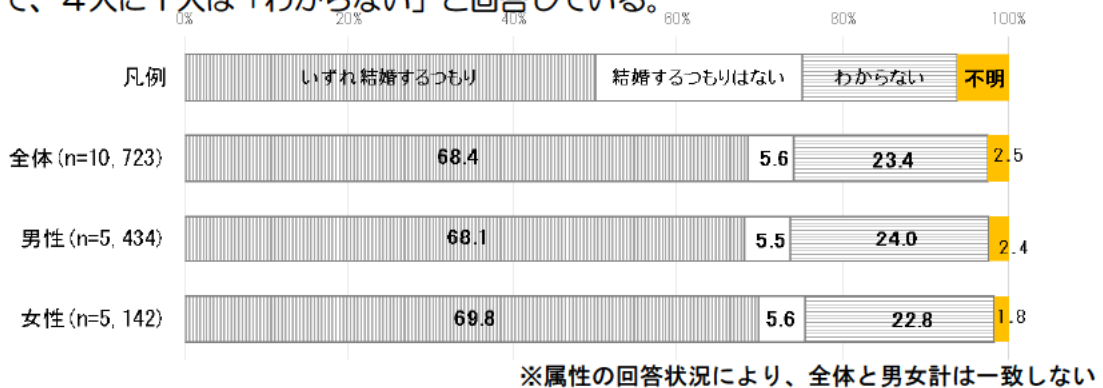
図表3 結婚についての考え（問8）

➤ 男女ともに結婚について肯定的な考え方（「結婚はするべきだ」「結婚はしたほうがよい」）の割合が約6割となっているが、4人に1人は結婚等は必ずしも必要ではないと考えている。なお、「わからない」「不明」も合わせて約1割ある。



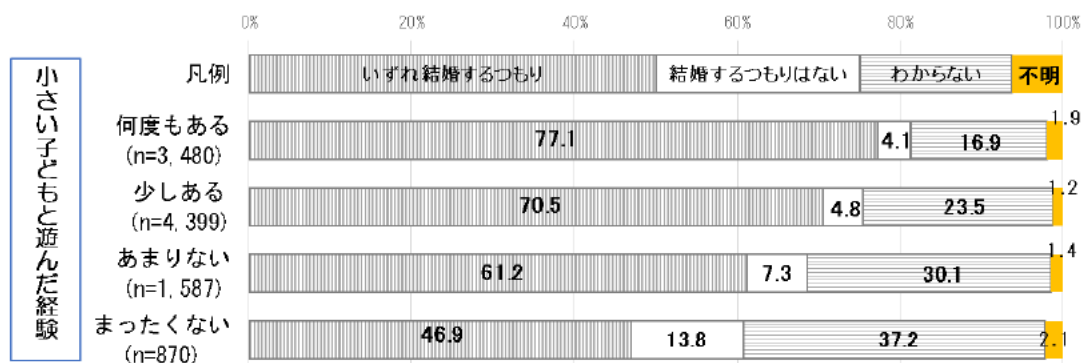
図表4 自身の結婚に対する考え（問9）

➤ 自身の結婚に対する考えについて、約7割の人が「いずれ結婚するつもり」と回答した一方で、4人に1人は「わからない」と回答している。



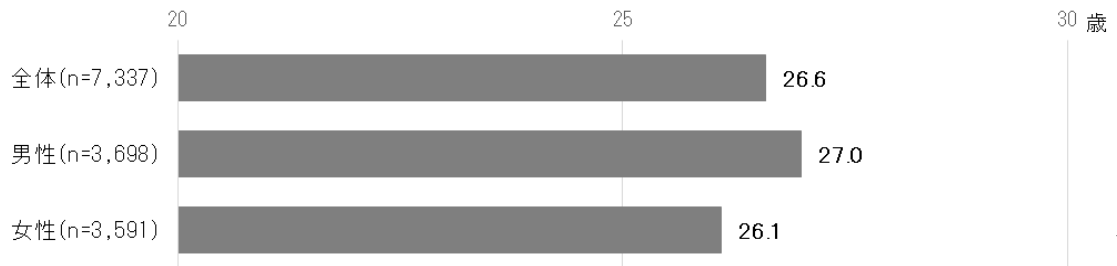
参考 小さい子どもと遊んだ経験（問23）と自身の結婚に対する考えの関連（問9）

➤ 小さい子どもと遊んだ経験が多い層ほど、「いずれ結婚するつもり」と回答した割合が高い。



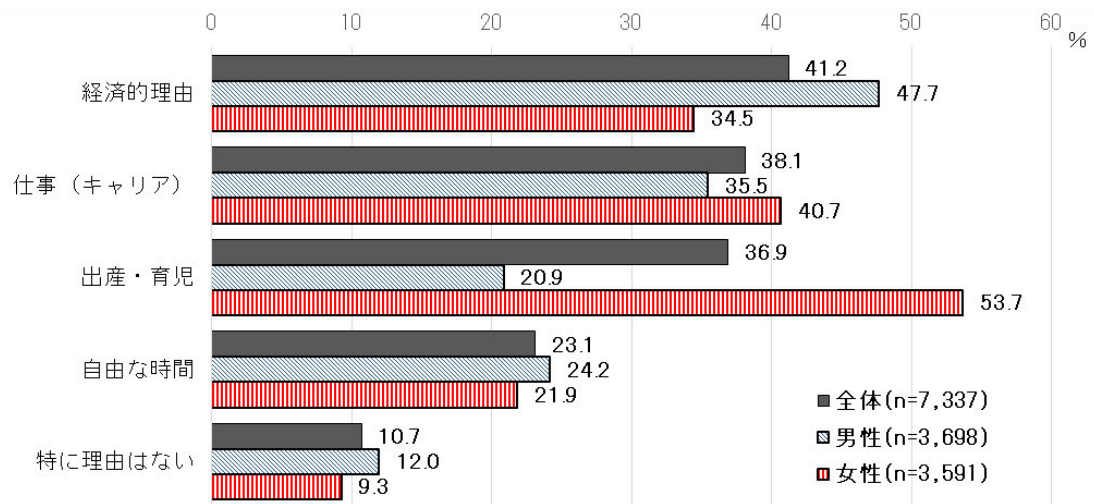
図表 5 理想の結婚年齢（問 10）

➤ 理想の結婚年齢の平均は 26.6 歳で、男性が 27.0 歳、女性は 26.1 歳となっている。



図表 6 結婚年齢を考える際に重視した事項（問 11_複数回答）

➤ 結婚年齢を考える際に重視した事項は、男性は「経済的理由」、「仕事（キャリア）」、「自由な時間」、女性は「出産・育児」、「仕事（キャリア）」、「経済的理由」の順に多い。



※「その他」の選択肢及び不明を除いて記載。属性の回答状況により、全体と男女計は一致しない

2. 子どもを持つことについて

○理想の子どもの数の平均は 1.96 人で、子どもを欲しいと思う理由は「子どもが好き」や「子育てがしたい」などが多く、子どもが欲しいと思わない理由は「結婚するつもりがない」や「子育てに自信がない」などが多い。 **図表 7** **図表 8** **図表 9**

図表 7 理想の子どもの数（問 20）

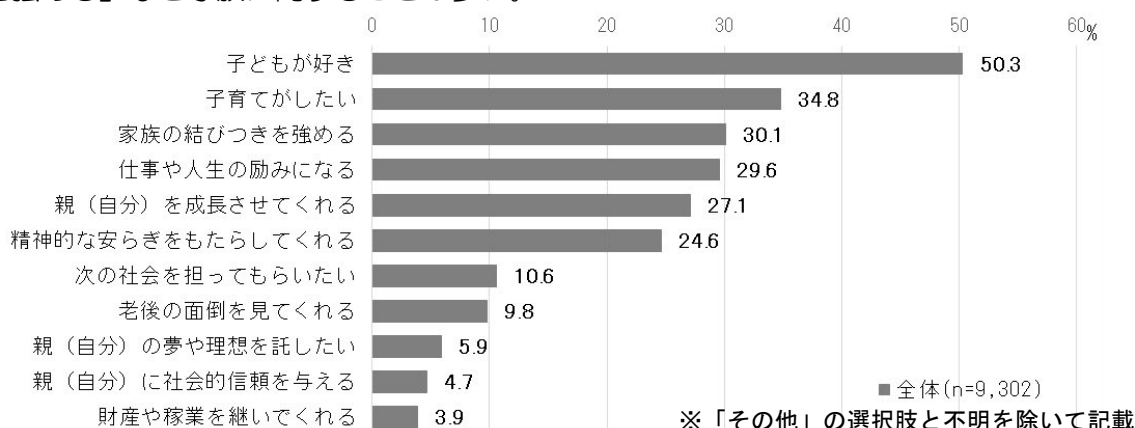
➤ 将来的に欲しいと考える子どもの数の平均は 1.96 人となっている。



※属性の回答状況により、全体と男女計は一致しない

図表 8 子どもを欲しいと思う理由（問 21_複数回答）

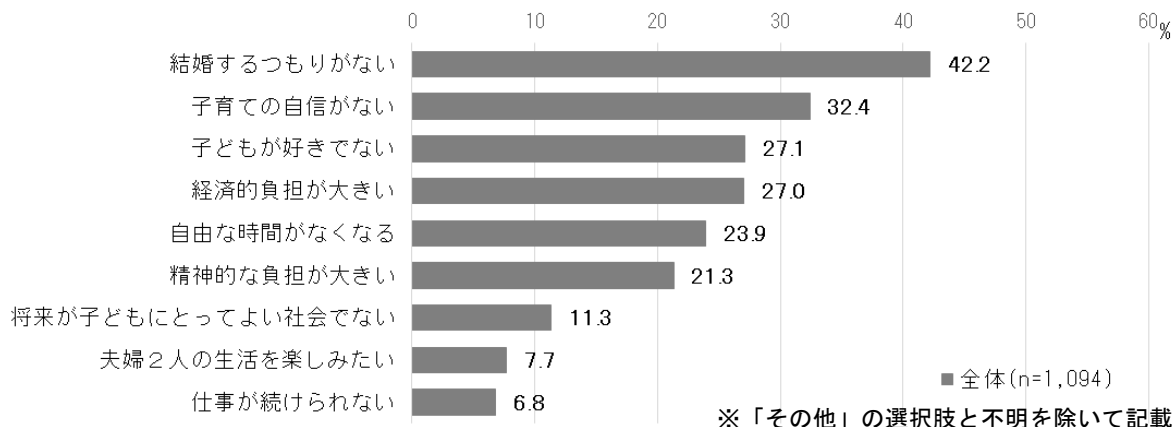
➤ 子どもを欲しいと思う理由は、「子どもが好き」や「子育てがしたい」、「家族の結びつきを強める」など家族に関することが多い。



※「その他」の選択肢と不明を除いて記載

図表 9 子どもを欲しいと思わない理由（問 22_複数回答）

➤ 子どもを欲しいと思わない理由は、「結婚するつもりがない」が最も多く、次いで「子育ての自信がない」、「子どもが好きでない」、「経済的負担が大きい」の順に多い。



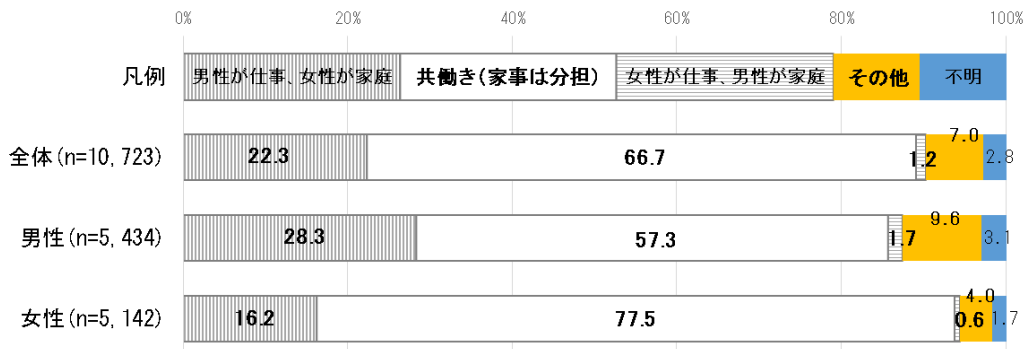
※「その他」の選択肢と不明を除いて記載

3. 家庭と仕事について

- 女性の4人に3人は共働き（家事は分担）が理想と考えている。 **図表 10**
- 女性が働くことについて、男性は「子どもができたら仕事をやめ、大きくなったら再び働く方がよい」（『中断型』）の割合が最も高いが、女性は『中断型』と「子どもができて、ずっと働き続ける方がよい」（『継続型』）がほぼ同じ割合である。 **図表 11**
- 家庭と仕事の両立をさせるために必要なことは、「夫婦が家事育児に協力」することや「職場の育児休業などの制度の充実」が重要と考えている。 **図表 12**
- 「父親も母親と育児を分担して、積極的に参加すべき」と考える人の割合は約6割で、男性よりも女性の方が高い。 **図表 13**

図表 10 理想とする夫婦の生活スタイル（問 16）

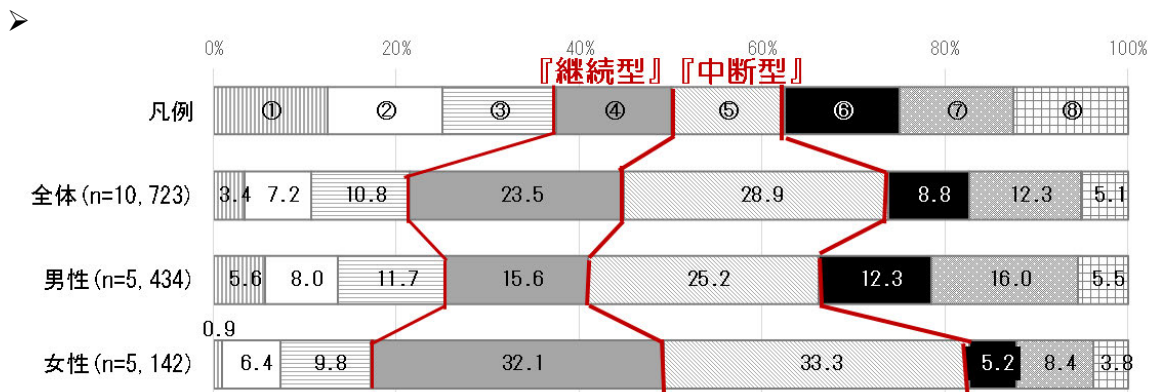
- 理想とする夫婦の生活スタイルについて、女性の77.5%は「共働き（家事は分担）」と考えており、男性（57.3%）より20.2ポイント高い。



※属性の回答状況により、全体と男女計は一致しない

図表 11 女性が働くことについて（問 28）

- 女性が働くことについて、男性は『中断型』が25.2%で『継続型』（15.6%）より約10ポイント高いが、女性は『中断型』（32.1%）と『継続型』（33.3%）がほぼ同じ割合になっている。また、男性は『わからない』が16.0%となっている。

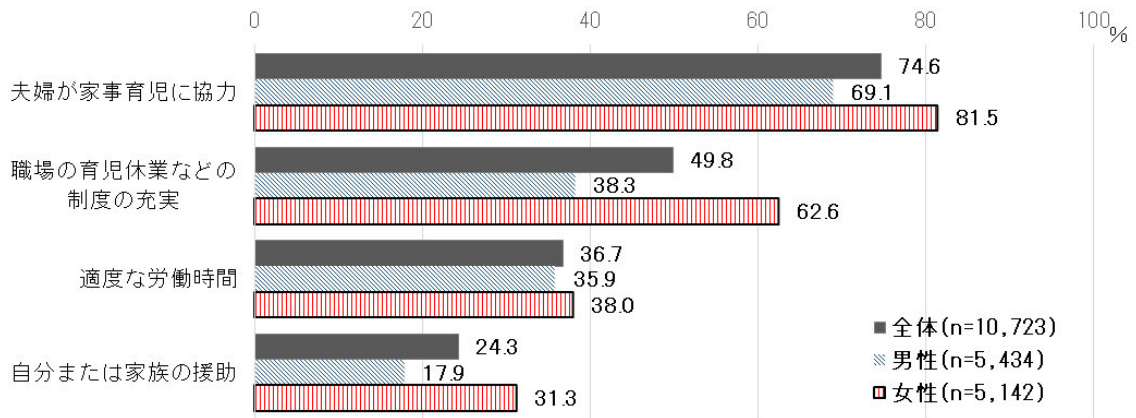


- ①家事や育児があるので、働かない方がよい
- ②結婚するまでは働く方がよい
- ③子どもができるまでは働く方がよい
- ④子どもができて、ずっと働き続ける方がよい（『継続型』）
- ⑤子どもができたら仕事をやめ、大きくなったら再び働く方がよい（『中断型』）
- ⑥その他
- ⑦ わからない
- ⑧ 不明

※属性の回答状況により、全体と男女計は一致しない

図表 12 家庭と仕事の両立に必要なこと（問 17_複数回答）

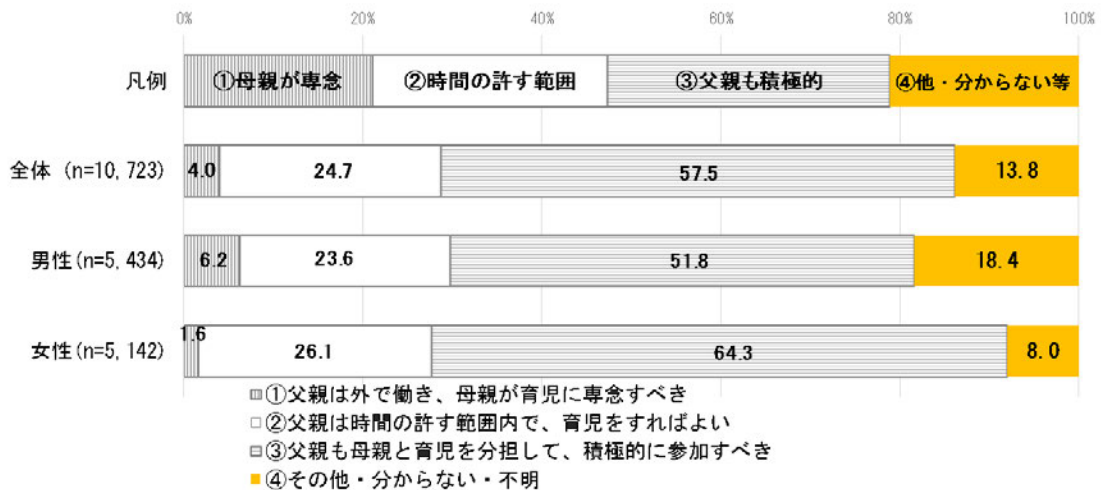
- 家庭と仕事を両立させるために必要なことは「夫婦が家事育児に協力」が最も多く、いずれの項目においても女性の割合が高くなっている。



※「その他」の選択肢と不明を除いて記載。属性の回答状況により、全体と男女計は一致しない

図表 13 父親が育児をすることの考え方（問 29）

- 父親が育児をすることの考え方について、「父親も母親と育児を分担して、積極的に参加すべき」が57.5%で最も高く、「父親は時間の許す範囲内で、育児をすればよい」を加えると82.2%となっている。また女性は、「父親も母親と育児を分担して、積極的に参加すべき」が64.3%で、男性（51.8%）より12.5ポイント高くなっている。



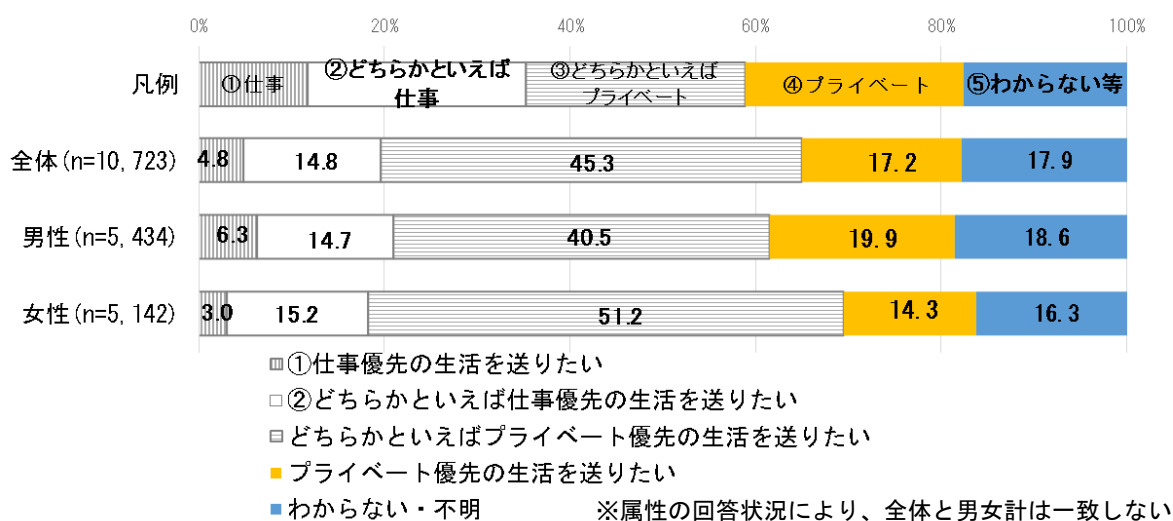
※属性の回答状況により、全体と男女計は一致しない

4. 就職について

- 仕事よりプライベートを優先したいと考える学生が多い。 **図表 14**
- 就職で重視する条件は「働きやすさ」、「給料」、「やりがい」の順に多く、女性は「産休・育児休暇制度」も多い。 **図表 15**
- 卒業後は出身地に住みたいと回答する学生が多い一方、県外に住みたいと回答する学生も多い。 **図表 16** **図表 17**

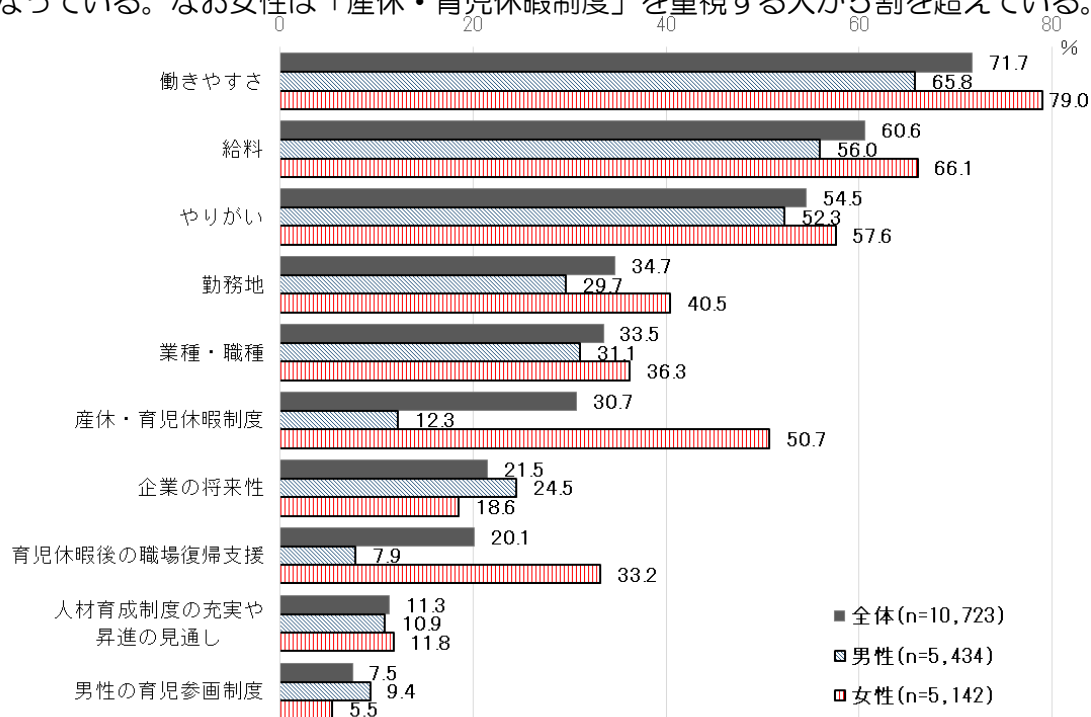
図表 14 仕事とプライベート（問 32）

- 62.5%の学生が仕事よりプライベートを優先したいと考えている。



図表 15 就職で重視する条件（問 30）

- 就職で重視する条件は「働きやすさ」が最も多く、次いで「給料」、「やりがい」の順となっている。なお女性は「産休・育児休暇制度」を重視する人が5割を超えている。



図表 16 卒業後に住みたい地域（問 18）

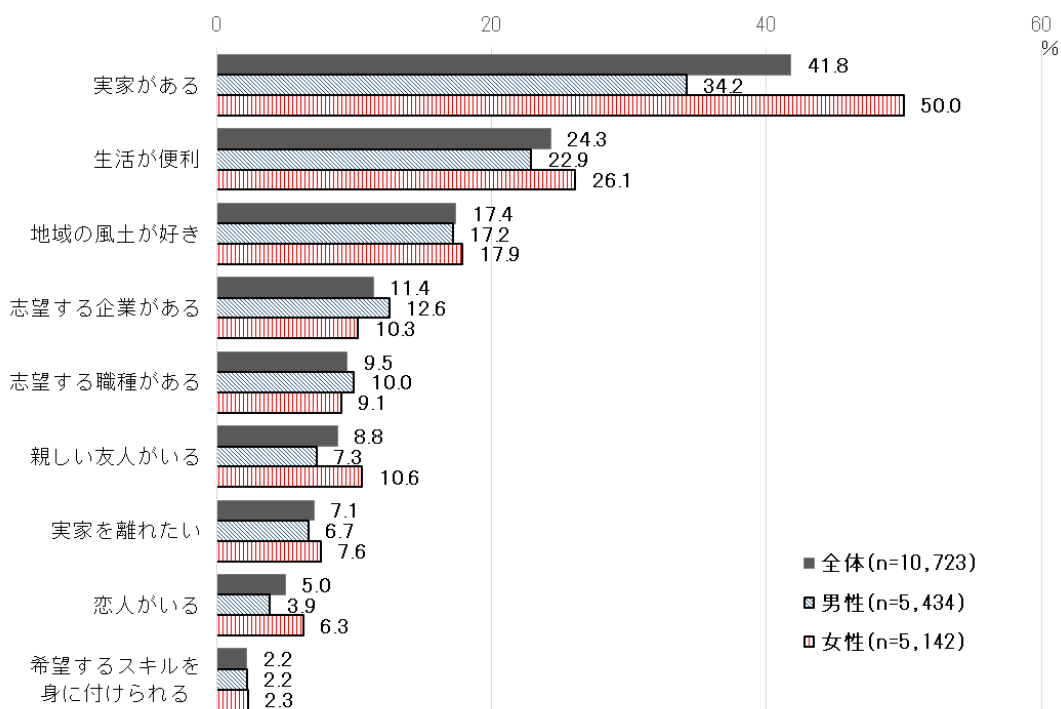
- 卒業後は出身地に住みたいと回答する学生が多いが、全体では「三重県外」が 41.3%、「わからない」が 23.8%となっている。

		卒業後に住みたい地域						
		北勢	伊賀	中南勢	伊勢志摩	東紀州	三重県外	わからない
全体(n=10,723)		20.3	2.2	16.5	8.1	1.4	41.3	23.8
出身地別	北勢(n=2,492)	60.7	0.9	4.7	2.1	1	26.4	20.0
	伊賀(n=402)	9.5	36.3	10.9	5	1.2	35.3	28.1
	中南勢(n=2,244)	11.9	1.3	54.9	4.5	0.8	22.9	25.2
	伊勢志摩(n=1,218)	9.5	1.2	17.6	50.9	1.1	23.7	23.9
	東紀州(n=192)	17.7	0.5	20.3	10.9	40.6	23.4	22.4
	三重県外(n=4,073)	5	0.4	2.8	1.3	0.4	67.8	25.7

※不明を除いて記載

図表 17 卒業後に住みたい地域を選ぶ理由（問 19_複数回答）

- 卒業後に住みたい地域を選ぶ理由について、女性の 2 人に 1 人が「実家がある」と回答している。



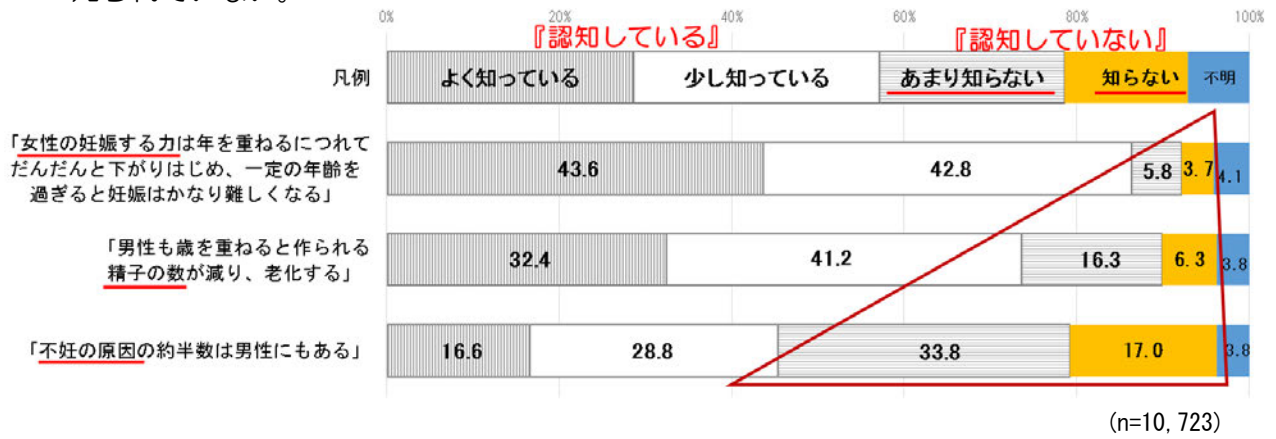
※「その他」の選択肢と不明を除いて記載。属性の回答状況により、全体と男女計は一致しない

5. 妊娠・出産に関する医学的情報の認知度

○「不妊の原因の約半数は男性にもある」ことなどはまだ広く知られていないが、多くの学生はこのような妊娠・出産に関する医学的な情報を知ることは将来設計や行動に変化があると考えている。**図表 18** **図表 19**

図表 18 妊娠・出産に関する医学的情報の認知度（問 24～26）

➤ 「不妊の原因の約半数が男性にもある」ことを『認知していない』（「あまり知らない」「知らない」）割合が 50.8%となっているなど、妊娠・出産に関する医学的情報はまだ広く知られていない。



図表 19 妊娠・出産に関する医学的情報の認知による将来設計や行動変化（問 27）

➤ 妊娠・出産に関する医学的情報を知ることで、71.3%の人が将来設計や行動に「変化があると思う」と回答している。

